

学校評価を踏まえた次年度の取組み

滋賀県立玉川高等学校

1 学習指導

生徒や保護者は、家庭での学習習慣につながる指導や取り組みへの期待が大きい。B Y O D導入を契機に、I C T機器の有効活用を検討し推進することで、生徒や保護者の期待に応え得る授業づくりを進める。

観点別評価の確実な運用によって、教員の指導改善につなげるとともに、生徒が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする。

2 生徒指導

生徒は、ルールの遵守やマナーの向上に努める意識が高い。近隣住民から信頼される交通ルールや、S N Sのトラブルを回避するためのスマホ使用のルールやマナーなど、日常的な指導や講演会などを通じて正しい知識を身に付けさせる。

3 学校図書館

図書館の取り組みや活用には高い評価を得ている。読書習慣を持たない生徒が一定数存在することが課題。朝学習や総合的な探究の時間など、本に触れあう機会の創出に引き続き取り組んでいく。

4 学校の取組み

生徒も保護者も、教育活動や学校の様子についての発信力に課題があると感じている。特に生徒は、本校のホームページを活用していない。広報誌等の発行に加え、ホームページ等を有効に活用したタイムリーな情報提供に努める。

生徒も保護者も学校行事に対する関心が高く、コロナ禍においても工夫した取り組みの実施を期待している。感染対策を徹底した上で、行事等を実施する。

総合的な探究の時間が3年間を通じて自らの成長を感じられる充実した授業となり、玉川高校の特色ある取り組みとなることを目指す。